

児童生徒の学力・学習等に関するアンケート結果

町内の小中学生を持つ全保護者を対象に..... PART1

今回の調査は、町内の小中学生を持つ全保護者965人を対象に、アンケートにご協力をいただきました。調査結果を1月号と2月号の2回に分けてお知らせします。

図4.現在の教育の優れた点は？ (複数回答)

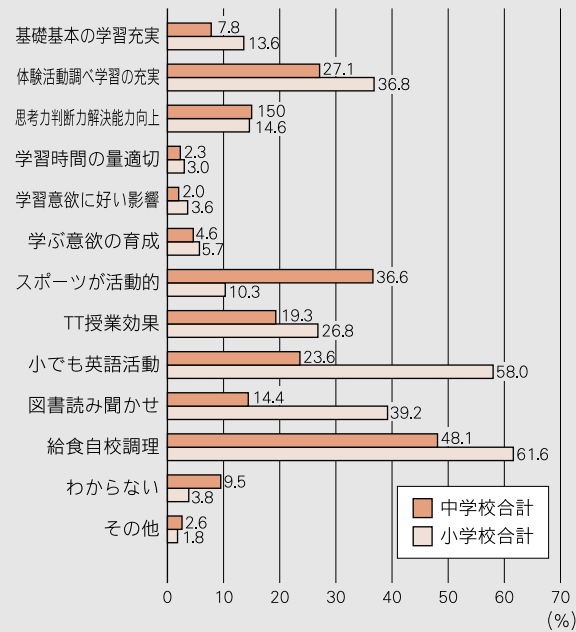


図3.現在の教育の改善点は？ (複数回答)

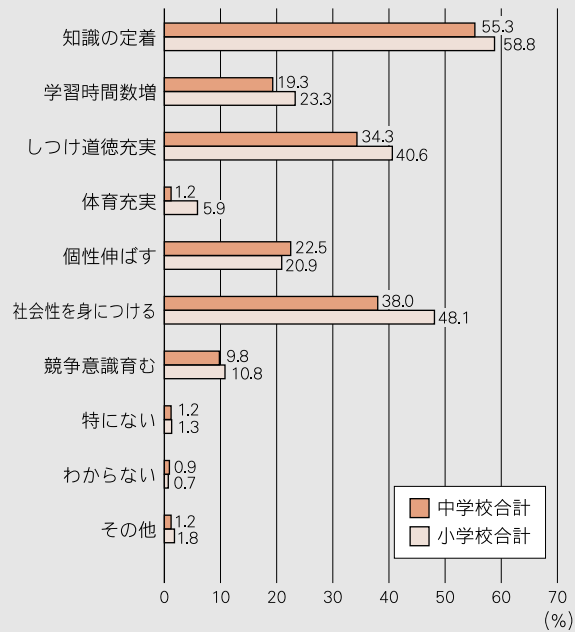


図2.「学力」のイメージは

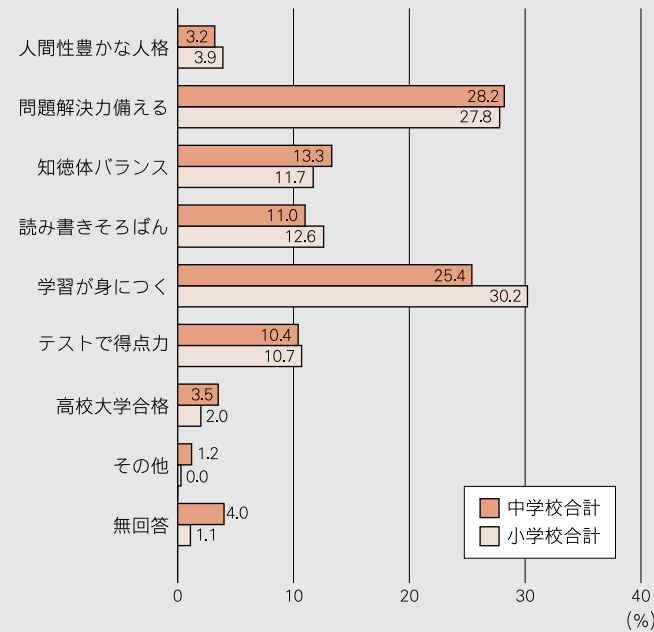
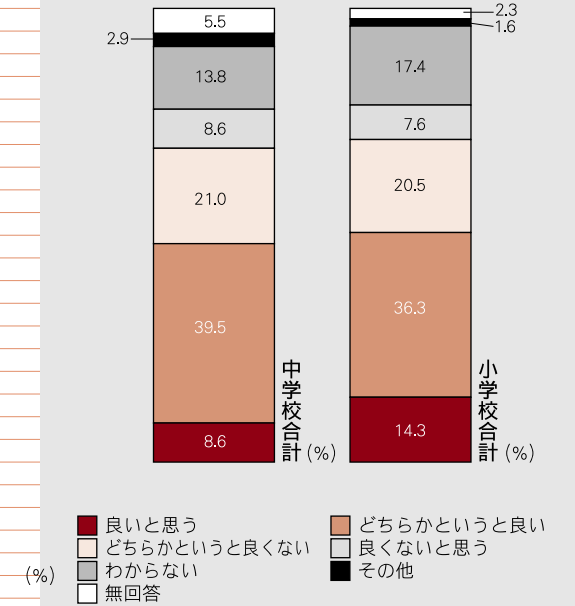


図1.現在の教育の印象は？



芳賀町独自で実施している事業

TT事業 (チームティーチング)

チームティーチングとは、複数の教員がチームを組んで、子どもたち一人ひとりの実態に応じながら指導する方法のことです。芳賀町では、現在9人の学習指導助手を配置しています。

- (TT事業の効果)
- ①きめ細かな指導ができること
 - ②個別指導が充実すること
 - ③学習記録の点検が徹底すること
 - ④子どもとの対話が充実すること
 - ⑤子ども個々の存在がクローズアップされること

小学校英語教育活動

英語の授業は中学校から始まりますが、芳賀町では小学校の「生活」や「総合学習の時間」に英語活動を導入し実施しています。小学校でも中学校と同じように外国人の英語の先生に委託し実施しています。平成18年度からは、外国人の先生と担任が共同で授業をしていけるカリキュラムの研究をしています。

図書室の充実

【図書司書】
この事業は全国的にも先進の事業で、現在、芳賀町独自に学校の図書司書3名を委託派遣しています。将来的には図書司書が各学校に配置される環境にしていきたいと考えています。図書室に司書がいることで、今まで以上に、子どもたちは自分にあった本を選んだり、気軽に図書室での調べものができるようになりました。

【読み聞かせ】

本をもっと好きになるために、読み聞かせを実施しています。読み聞かせにはボランティアの方をお願いして実施しています。

学校給食における地産地消

芳賀町の学校給食は、全校とも学校に附属する給食室で作られています。食材は、なるべく地物と野菜を使うようにしておいしい給食を作っています。

その他に、小学校では「英語活動」に58%程度が回答し、高く評価されました。町でも、小中一貫した教育理念とカリキュラムの確立が大切であると考え、来年度からは小学校英語活動と中学校の英語授業との連携を図るよう計画しています。この他に小学校では、図書読み聞かせやチームティーチング授業の効果

も挙げられました。いずれも町単独で図書司書助手を学校に配置したり、学習指導助手を配置したことによる効果の現れだと考えます。中学校では、「スポーツ活動が活発」が36.6%、「体験活動や調べ学習の充実」に「適している」27.1%、「チームティーチング授業が効果」19.3%と続きました。

求める点は知識の定着 学力という言葉に抱くイメージ(図2)について聞いてみると、「問題解決」、「学習が身につく」にそれぞれ約30%の回答があり、現在の教育

の改善点(図3)の「知識の定着」や「社会性を身につける」という回答をみると、保護者の学力のイメージと現在の教育改善点や期待する点が一致していることがわかりました。また、学力のイメージとして「知・徳・体のバランス」、「読み・書き・そろばん」、「テストの得点力」をあげた保護者は10%前後でした。また、「高校・大学合格」や「人間性豊かな人格を備える」は、3%前後の低いポイントでした。

町独自事業 高く評価

現在の教育の優れたところを聞いたところ、芳賀町が独自で実施している事業が高く評価されていることがわかりました。特に、自校方式による学校給食については過半数が優れていると評価しています。これは、地産地消の推進と望ましい食生活を送ることができる能力を身につけさせようとする食育の重要性が認識されたものと思われます。

調査の結果から

保護者

授業数「少ない」

現在の教育への印象について(図1)聞いてみると、半数が「良い」と答え、現在の教育について良い印象を持っているようです。しかし、授業日数については「少ない」と小中学校ともに半数が答え、「適切である」は30%程度でした。この授業日数の対応として、「現状のまま」の24%程度の回答に対して、小中学校ともに半数以上の保護者が授業時数の増加を望んでいます。週5日制導入やゆとり教育による授業内容の3割減などの影響と思われる。授業日数の確保が検討課題とされます。